

上野天神祭：小玉町

小玉町の「しるし」は「三社の託宣」である。この託宣は伊勢神宮、石清水八幡宮、春日大社の三社の神々からのお告げである。「しるし」の中には、天照皇大神、八幡大菩薩、春日大明神を表す3体の像が納められている。

この「しるし」と対になっているのは、藁で作られた小さな雨合羽を意味する「小簔山」という「だんじり」である。「初しぐれ 猿も 小簔をほしげ也」と松尾芭蕉（1644～1694）が俳句に詠んでいる。松尾芭蕉は伊賀上野で生まれ、小玉町の住民はこの俳句が染め抜かれた法被を祭りの日に着るのである。

小簔山の大部分は、中国の古典から着想を得た情景やモチーフで装飾されている。水引幕は、伝統的な中国の物語、「西園雅集図」で、そこには、当時の偉大な芸術家や作家が食事のため集まった様子が描かれている。胴幕には、元王朝（1271～1388）に遡る中国の教育書の「二十四孝」の場面が描かれており、親孝行を称賛している。前幕の龍と亀の刺繍は、胴幕の虎と鳥の図柄で完成している。これら龍亀虎鳥が合わさって、東西南北の4つの方角と春夏秋冬の四季を表している。